

獣医学部な気がします。

小倉(薬) 獣医学部で勉強している大変な科目とかありますか？

中村(獣) 内科が結構大変です。私の大学は内科は再試験をやらないので。再試験があるかないかは結構大事(笑)

小倉(薬) 内科は薬学部ではやらないので全く分かりませんが、薬学部だと解剖学にあたる科目でしょうか…解剖学もありますか？

山内(獣) あります。私の大学では解剖学は犬1匹を1年間かけて見尽くすという感じです。

中村(獣) 私たちは犬基準で解剖学を広げていきますが、地方だと牛基準になります。薬学部はお薬の処方勉強をずっとされてそうじゃないですか、調剤の勉強とか。

小倉(薬) 調剤もですが、実習でも細かい作業が多いです。獣医学部は実験はありますか？

中村(獣) 実験ばかりな感じです。先週は微生物学で今週は薬理学実習ですね。

小林(薬) 獣医学部の薬理学実習はどのようなことされているんですか？

中村(獣) ラットに鎮静薬と局所

麻酔薬と…って五つぐらい薬を入れてどういう行動の違いがあるのか見て、入れた薬は分からないので行動の様子とかを見てどの薬かを同定するというのを今はやっています。

小倉(薬) 私たちは薬が分かっている状態で、投与したあとのマウスの行動を観察します。人間の薬の管理は薬剤師が行いますが、動物の薬の管理は獣医の業務なんですか？

中村(獣) そうですね。

小林(薬) 動物用の薬の数って少ないんですか？

山内(獣) 人間よりは少ないかな…人間からおろしてきて使えるものを決めているので、人間からおりてくるまで使えないという感じです。動物用に開発されることはないので、おりてくるまでのスパンが長いと、人間には使えるのに動物には使えないみたいなことになります。



対談を終えて

ないと思いますね。

小林(薬) 人間って生物の中の種類じゃないですか、でも動物というものすごい数の種類があるから、むしろ研究や開発をするならそちらの方が良い気がするんですけどね。

山内(獣) 市場がかなり小さくて、小動物臨床となるとさらに小さくなりますし。どんどん小動物の市場が小さくなっていく中で獣医学生はどのように広げていくかを考えています。

中村(獣) 獣医学って農学系の中

の一つなんですよ。だから農業の中の獣医師だったら家畜も一つひとつを治すのではなくて、感染症が広がらないように病気にかかったら殺す、という感じが普通です。

小倉(薬) 感染症だと薬学も協力できそうですね。私は感染症という部分での協力について全く思いつかなかったんですけど、いちばん現実的というか実現しやすいというか…講義で感染症について学ぶ機会もありますし、ありだなんて思います。

人も動物も同じ患者さん

小倉(薬) 将来、薬学部の人に動物用の医薬品を開発してほしいとか、どう連携したいとか、ありますか？

中村(獣) 人と動物の薬の専門家という人がいたら、とても素晴らしいなって思っています。

小倉(薬) 私も動物専門の薬剤師がいたり、薬局があつたりしたらいいなと思います。病院でもらうのではなく、薬局でペットの体調につい

て飼い主の方に聞いたり、1対1で会話できる時間があればいいなと思います。

中村(獣) きっと、ペットも薬をまづいと感じて飲めなかったということがあつと思うんですよ。でも、だいたい無理やり口に入れて飲まさせてしまうケースが多くて。そこで、飲みやすさを追求できていたら、もっと治療がスムーズにいったりするかもしれ

対談を終えて

藤本(獣) 獣医療の中で小動物のために薬剤師を割くのはどうなんだろう…確かに小動物のためにはなるかもしれないけれど、もっと感染症とか他のところで連携できれば動物のためにも人間のためにもなるのかなって思いました。

中村(獣) 動物の栄養学とか獣医

なら分かるでしょ？と言われてしましますが、多少は学びますけど、実際は社会に出てから患者さんに聞かれて勉強するような感じなので、学生のうちに勉強する内容は結構薄くて…だから動物の栄養士がいても良いと思うし、そういう並びで薬剤師がいても良いのかなって思います。動物と共生できる環境をつくっていくメンバーとしていてくれたらうれしいです。

HPV (Human papillomavirus) ワクチンは子宮頸癌を予防するために開発されたワクチンです。女性がHPVに感染すると、数年から数十年という長い時間を経て、段階的に子宮頸癌を発症することが知られています。

HPVワクチンが臨床で用いられるようになったのは2006年以降ですから(日本での定期接種化は13年4月。ただし積極的な接種勧奨は一時差し控え状態)、子宮頸癌やそれによる死亡リスクに関するデータは十分に集まっていません。とはいえ、前癌病変に対する同ワクチンの有効性は複数の研究で一貫して示されています(PMID:29740819, 31255301)。ところが、子宮頸癌を減らせるとしたエビデンスがないことを根拠に、同ワクチンの効果が否定的に論じられることが多々あります。エビデンスがなければ有効性を論じることはできないのでしよ



医療法人徳仁会中野病院薬局
青島周一

これから『薬』の話をしよう

エビデンスがなければ効果がないのか？

うか？

一般的に癌は様々な要因が複雑に影響し合って発症しますが、HPV感染と子宮頸癌発症の関連性は、喫煙と肺がんの関連性よりも強く、また子宮頸癌症例の99%以上がHPV感染者であることが分かっています(PMID:11314432)。つまり子宮頸癌は、ほぼ全例でHPV感染が原因であり、これは明確な因果関係といえるものです。したがって、ワクチンによりHPV感染を防ぐことができれば、子宮頸癌は予防できるのです。

エビデンスが存在しない以上、この主張は確かに理論上の推測にすぎないのかもしれませんが、しかし、因果関係が明確な場合とそうでない場合では、推論

の精度は大きく異なります。例えば、スカイダイビングをするために、4000m上空から飛び降りることになったとしましょう。無事に地面に着地するためにパラシュートを装着するはずですが、パラシュートには死亡リスクを低下させたとするエビデンスは報告されていません(PMID:14684649)。それにもかかわらず、パラシュートを装着せずに飛び降りることはしないでしょう。高所から落下すれば死亡、ないし重度の外傷を負うことはエビデンスがなくとも明らかです。

因果的つながりが明確かつ、明らかに大きな効果が期待される場合、検証実験をするまでもなく、その有効性を論じることは可能なのです。

薬 のことなら 薬事日報ウェブサイト

「薬学生新聞」もウェブサイト公開中!!

<https://www.yakuji.co.jp>

薬事日報

検索